

2024年3月1日

令和6年能登半島地震 状況報告

ウェザーハート災害福祉事務所 代表
山形県自主防災アドバイザー
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）委員

チガハラ キミヒコ
千川原 公彦

自己紹介

①これまで

- 1991年 ITや観光業の会社に勤務、山形・秋田・宮城で生活
- 2000年 北海道の噴火災害で災害支援に携わる
- 2003年 災害支援NPOや事務所を開設
- 2009年 自治会の防災福祉マップ作成補助（約230か所）を行う

②主な災害派遣先

- 関わった被災地は約30ヶ所、災害ボランティアセンターは約40ヶ所。
- 北海道有珠山噴火災害 (00)
- 新潟県中越地震 (04)
- 兵庫県佐用町豪雨 (09)
- 茨城県つくば竜巻 (12)
- 関東東北豪雨 (15、大和、栗原)
- 北海道十勝豪雨 (16)
- 最上豪雨 (18、戸沢)
- 台風19号 (19、丸森、川西)
- 最上川豪雨 (20、山形)
- 宮城北部連続地震 (03、矢本)
- 岩手宮城内陸地震 (08、栗原)
- 東日本大震災 (11、塩釜)
- 山形豪雨 (13、14、南陽)
- 熊本地震 (16)
- 新潟県糸魚川大火災 (16)
- 西日本豪雨 (18、愛媛)
- 山形沖地震 (19、鶴岡)
- 7月豪雨 (20、熊本)

③現在の主な所属

- 山形県自主防災アドバイザー（2008年より 山形県庁から委嘱）
- 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 委員（中央共募）など

①珠洲市の被害状況



写真:ゴジラ岩(珠洲市役所HP)

- **珠洲市の概況**
 - 半島の先端に位置
 - 観光:神社、珪藻土、陶芸、ゴジラ岩
 - 人口:約12,000
 - 世帯数:約5,500
 - 高齢化率:51%
- **少子・高齢化が進む**
市全体が被災

珠洲市の今

- 私は1月4日から「珠洲市社会福祉協議会(被災者・高齢者等の生活支援の回復を担当)」へ災害派遣
- テレビ等では「少しずつ復旧が進んでいます」といった報道がされているものの、珠洲市ではほとんど復旧が進まず
- 発災から二ヶ月、ガスと水道は止まったまま
- 電気は「おおむね復旧が完了した」といわれているが、あくまでも電柱と電線が復旧しているだけの状態
- 電気・水・ガスが使えない状態で、市民の多くは避難生活を強いられているのが現状

地震による被害が多数

撮影：千川原公彦



- 世帯数は約5,500。9割以上の世帯で被害がある。
- 市内を更地・再整備するのに何年も必要な状況。

沿岸部の複数地区で津波被害を確認



撮影：千川原公彦

- 津波で更地になってしまった地域は複数あります(飯田地区・宝立地区・三崎地区など)。

沿岸部の複数地区で津波被害を確認



撮影：千川原公彦

- 飯田地区・宝立地区・三崎地区など**複数の地区で津波被害**が確認。海岸約1kmにわたって津波被害があるため、千棟以上は津波被害があるのではと予想。

行政や社協の職員もほぼ全員が被災

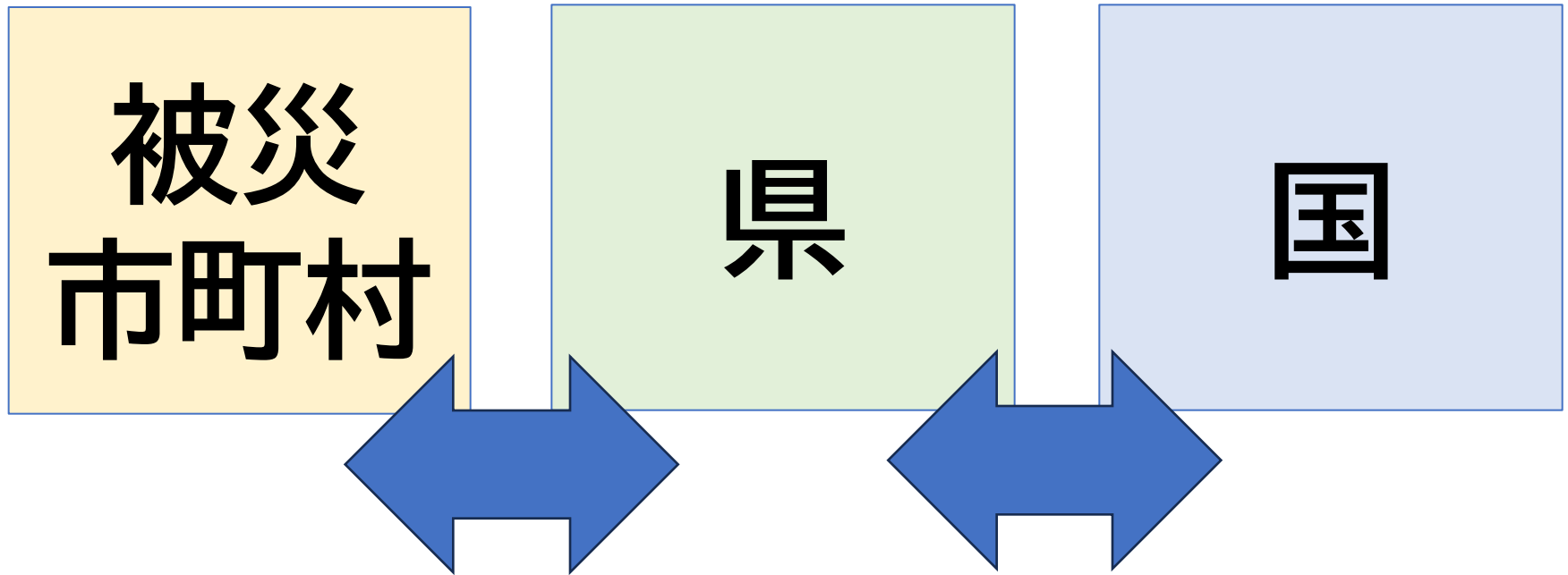


撮影：千川原公彦

- 最大震度7と津波、火災により支援者が被災者に。
- 「被災者が被災者を支援する」構図になっています。

受援力の重要性

- 受援力とは「支援を受ける能力」。お互いが補完



珠洲市の犠牲者数



撮影：千川原公彦

- 写真は行方不明者の搜索を警察が行っている様子
- 昨日(2/15)に行方不明者はゼロになり、犠牲者は100人

②住民の状況



写真：北國新聞

- ライフラインが使えないため手洗いや入浴もできない。
- 自衛隊が風呂を運営してくれているが障がい者の介助までは難しい。2ヶ月近く風呂に入れない住民もいる。

他市町・他県へ避難が出来ない住民



- 復旧の目途が立たないため、ピーク時は約90か所あった各避難所から150km離れた金沢市へ集団避難を行っている。
- 学校給食も食パンのみの日もある。
- 支援をしている認識の行政と、不満・不安を抱える住民との接点を作る必要があります。

指定避難所の様子



撮影：千川原公彦

- 指定避難所(学校)の様子
- 教室や廊下にところ狭しと段ボールが積み上げられている。すべて食料や日用品。
- この避難所では救援物資は充足している。

自主避難所の様子



撮影：福井県議の方

- 指定避難所に入れない人達は、ビニルハウスなどを用いて自主避難所を開設し、生活するケースも。
- 珠洲市の犠牲者の一割は「災害関連死」と言われています。

極めて深刻なトイレ問題



まとめ – 山形としてどう生かすか

- 今回の能登半島の災害や混乱は、山形県でも充分起こりうると感じています。
- 能登を教訓に、今後の市内・地域での訓練のありかたを考えるとすれば何があるか？
- 例 … 行政(災害対策本部)や社協(災害VC)の職員も全員被災する可能性があることを県民に周知。自助・互助に特化した研修・訓練を企画するのは次年度は理解を得られるのではないか？ → 「要配慮者への声かけ→避難誘導→連絡・伝達→避難所での生活空間の確保(必要な資機材の洗い出し)等」をストーリー仕立てで展開 → ひいては**災対・災害VC・自治会**の連携・協働を意識する機会